

令和7年度 東京都立葛飾商業高等学校定時制課程 学校運営連絡協議会報告

1 組織

- (1) 東京都立葛飾商業高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、経営企画室長、教諭1名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主任教諭）
進路指導主任（主幹教諭） 計6名
- (4) 協議委員の構成
近隣中学校長、警察署員（生活安全課）、消防署員（警防課）、区職員（子ども応援課）、
地区民生・児童委員、同窓会役員、保護者代表 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 第1回学校運営連絡協議会・防災教育推進委員会概要

- ① 開催日時 令和7年6月17日（火） 午後3時30分から午後4時45分まで
- ② 出席者 内部委員6名 外部委員5名出席
- ③ 内容

- | | | |
|-----|---|---------|
| 1 | 校長挨拶及び協議委員委嘱状交付 | 校長 岩崎 豊 |
| 2 | 委員紹介（別紙「委員名簿」順に自己紹介） | |
| 3 | 令和6年度学校経営報告（校長）
・昨年度の学校経営報告について説明
・数値目標の達成度など | |
| 4 | 令和7年度学校経営計画（校長）
・校長より今年度の学校経営計画について説明
・令和8年度より募集停止となること、今年度数値目標設定を含めた経営計画概要など | |
| 5 | 防災教育推進について（生活指導主任）
・生活指導主任より、学校防災計画の概要と今年度の避難訓練についての説明 | |
| 6 | 各担当からの学校の現状と課題についての報告 | |
| (1) | 経営企画室（経営企画室長 堀江 考史）
・今年度の予算執行状況について説明
・今年度の主な施設改修工事などの説明
・施設改修および維持管理状況等について説明
・給食費の無償化、喫食の現状、具体的なメニューについての説明 | |

(2)教務部（教務主任 益本 光章）

- ・今年度の組織目標や取組の重点について説明
- ・入試データ及び入学後のアンケート実施

(3)生活指導部（生活指導主任 大木 康吉）

- ・生活指導目標及び重点目標などの説明
- ・授業準備指導の徹底と授業規律の確立
- ・学校生活のルール・マナーについて
- ・登校時の校門声掛け指導
- ・自転車通学ヘルメット着用徹底
- ・特別面談（気になる生徒との面談）の実施など
- ・今年度の行事について

(4)進路指導部（進路指導主任 中安 基之）

- ・進路指導方針について
- ・令和7年度の進路希望の実態について

(5)学校の様子紹介

入学式から現在のまでの学校の様子をスライドで報告した。

7 意見交換

金町消防署松丸委員

- ・防災教育の取組み、消防署との連携について
- ・学校内での避難訓練におけるより効果的な訓練方法について
- ・倫理観の高い生徒がおり素晴らしいことについて

新宿中学校佐藤委員

- ・地域を縁に多様な学びを支える学校について

亀有警察署草薙委員

- ・10代の非行防止について
- ・交通事故防止について

保護者代表藤本委員

- ・災害時等における学校の役割について
- ・少人数で教員と生徒の距離が近い本校の特色について

同窓会楠木委員

・生徒会がやる気があってうれしいこと、生徒会活動も含め様々な学校の活動について頑張っ
て取り組んで欲しい

- ・閉課程に向けての地域への発信や同窓会がどのように関わっていくべきかについて

(2) 第2回学校運営連絡協議会・防災教育推進委員会概要

- ① 開催日時 令和7年11月27日(木) 午後3時30分から午後4時45分まで
- ② 出席者 内部委員6名 外部委員5名出席
- ③ 内容

- | |
|--|
| <p>1 校長挨拶 校長 岩崎 豊</p> <p>2 防災教育推進について(生活指導主任)</p> <ul style="list-style-type: none">・生活指導主任より、防災(避難)訓練の現在の状況報告と今後の実施予定の説明(前回の防災教育推進委員会での意見を生かし、備蓄倉庫の見学等を通じて、学校の防災機能を理解する取組を実施することを報告した。) <p>3 各担当からの学校の現状と課題についての報告</p> <p>(1)経営企画室(経営企画室長 堀江 考史)</p> <ul style="list-style-type: none">・自律経営推進予算執行状況・主な施設改修・維持管理状況・私費関係の状況説明・給食の状況 <p>(2)教務部(教務主任 益本 光章)</p> <ul style="list-style-type: none">・広報活動の中間報告・ICT関連の中間報告・授業改善の中間報告(到達度テスト実施状況および分析概要報告など)・閉課程における準備等について・資格取得状況中間報告など <p>(3)生活指導部(生活指導主任 大木 康吉)</p> <ul style="list-style-type: none">・生活指導部の取組状況の中間報告(授業規律確立について、登校時のあいさつ運動、規範意識向上の取組、学校行事の充実、防災安全教育指導の取組など) <p>(4)進路指導部(進路指導主任 中安 基之)</p> <ul style="list-style-type: none">・進路指導活動の中間報告について・令和7年度4年生の進路状況について <p>(5)学校の様子紹介</p> <p>6月以降から現在の学校の様子をスライドで報告した。</p> <p>4 意見交換</p> <p>新宿中学校佐藤委員</p> <ul style="list-style-type: none">・中学校と高等学校のつながりを大切にしていきたい。・募集停止になることで、多様な生徒の選択肢が1つ減り残念である。 <p>保護者代表藤本委員</p> <ul style="list-style-type: none">・学校の情報発信について |
|--|

同窓会楠木委員

・募集停止にともない生徒数が減ることで学校の諸活動が縮小化することなく、同窓会としても協力していきたい。

葛飾区役所子育て支援部小山委員

・定時制課程の生徒状況を踏まえて、葛飾区としても連携協力していきたい。

地域代表西澤委員

・定時制課程において、きめ細やかな丁寧な指導をされており、ぜひ、今後もこの取り組みを続けて欲しい。

(3) 第3回学校運営連絡協議会概要

- ① 開催日時 令和8年2月19日(木) 午後3時35分から午後4時40分まで
- ② 出席者 内部委員6名 外部委員4名出席
- ③ 内容

- 1 校長挨拶 校長 岩崎 豊
- 2 各担当からの今年度総括報告
 - (1) 学校の様子紹介
11月以降から現在の学校様子をスライドで報告した。
 - (2) 経営企画室(経営企画室長 堀江 考史)
 - ・自律経営推進予算執行状況
 - ・主な施設改修・維持管理状況
 - ・各種支援制度の状況について
 - ・給食の状況
 - (2) 教務部(教務主任 益本 光章)
 - ・広報活動総括
 - ・ICT関連状況総括
 - ・授業等の方策等の総括
 - ・資格取得状況の説明と総括
 - ・中途退学防止策等の総括
 - ・業務の効率化に関する総括
 - (3) 生活指導部(生活指導主任 大木 康吉)
 - ・生活指導部の全体総括および現在の取り組み状況
 - ・2学期以降の学校行事の取組状況について
 - ・特別指導の状況について
 - ・3学期の防災教育の取組予定および避難訓練について
 - (4) 進路指導部(進路指導主任 中安 基之)
 - ・今年度の進路状況について
 - ・進路希望調査について

3 意見交換

新宿中学校佐藤委員

- ・学校運営連絡協議会で報告を通じて、互いの学校の取組の良い部分を生かしていきたいと考える。

同窓会楠木委員

- ・ICT機器を活用したオンライン授業等について

保護者代表藤本委員

- ・学校の様々な取組において、教員だけでなく、生徒にもやらせてはどうか。例えば、地域への発信を教員だけが頑張るのではなく、生徒にやらせてはどうか。

地域代表西澤委員

- ・地域への発信は、HPも良いが掲示板を活用することも有効であり、今後の取組に期待したい。

3 令和7年度学校評価委員会の概要（学校運営連絡協議会による学校評価報告）

（1）第1回学校評価委員会概要

- ① 開催日時 令和7年11月27日（木） 午後2時30分から午後3時25分まで
- ② 出席者 内部委員4名 外部委員3名出席
- ③ 内容

1 校長挨拶

校長 岩崎 豊

2 委員紹介

内部委員3名と外部委員4名から構成していることを確認した。

3 令和7年度の学校評価について

(1) 令和7年度学校評価アンケート案の説明および各対象者の確認と内容についての検討

・昨年度までの学校評価アンケート質問項目と学校評価アンケート結果を資料として、令和7年度学校評価アンケート質問項目案について議論をした。

その結果、大項目を明示して質問項目を検討し決定した。対象は、生徒、保護者、教職員、地域の方々を対象として実施することを確認した。

(2) 学校評価アンケートの回答方法についての意見交換

・アンケートは原則、Foamsによる電子アンケートで実施し、難しい場合は紙面により実施することとした。

（2）第2回学校評価委員会概要

- ① 開催日時 令和8年2月19日（木） 午後2時30分から午後3時30分まで
- ② 出席者 内部委員4名 外部委員3名出席

③ 内容

1 校長挨拶 校長 岩崎 豊

3 令和7年度の学校評価アンケートについて

(1) アンケートの結果および分析報告

今年度より、経年変化をやめて、統計的な手法を取り入れて、学校としての強みと弱み（課題）を分析し、今後の教育活動に生かすこととし報告した。

外部委員からの結果のまとめ方、分析方法について、この方法が良いとの意見が多く、今後もこのような方法で結果を出力し、分析を進めることとした。

(2) アンケート結果報告および分析結果についての意見交換

・生徒向けのアンケートの結果をはじめ

(3) 令和7年度学校評価についての結果報告

I 回答概況

1 学校評価アンケート回答状況

(1) 生徒向けアンケート 回答数 37 (対象者数43、回答率86%、昨年度回答率97%)

(2) 教員向けアンケート 回答数 15 (対象者数15、回答率100%
昨年度回答率100%)

(3) 保護者向けアンケート 回答数 18 (対象者数 成人生徒がいるため43未満、
昨年度回答数13)

(4) 地域のみなさま向けアンケート 回答数 18 (対象者数 18、昨年度回答数17)

II アンケート結果分析

質問内容も変わったことから、経年の割合等による分析を廃止し、統計的な手法を用いてアンケート結果から次年度以降の学校生活に生かせる事項を探ることを目的として分析した。

アンケート結果詳細は別紙参照。

1 分析方法

(1) 直接確率計算（正確検定）による分析

①分析方法

生徒・保護者・教職員・地域の対象ごとに、「肯定/否定/不明」の3水準で分割表を作成し分析した。

②分析結果

「対象 vs 他の対象 (2×3)」の直接検定で $p < .05$ となり、かつ肯定率差 (対象－他) が正/負 のものを「強み/弱み」として上位から最大3件を抜粋した。肯定率 (対象/他) のp値を示す。

【生徒対象アンケート分析結果】

学校として十分に達成していると読み取れること

a. 学校行事の活発さ (Q15) - 91.9% vs 70.6%, $p=0.0395$

b. 授業のわかりやすさ・工夫 (Q6) - 78.4% vs 60.8%, $p=0.0017$ 弱み

学校として改善すべきと読み取れること

a. 校内清掃の行き届き (Q18) - 51.4% vs 80.4%, $p=0.0055$

b. 読書活動の充実 (Q7) - 37.8% vs 54.9%, $p=0.0002$

【保護者対象アンケート分析結果】

学校として十分に達成していると読み取れること

- a. 読書活動の充実 (Q7) - 55.6% vs 45.7%, p=0.0365

学校として改善すべきと読み取れること

- a. 授業のわかりやすさ・工夫 (Q6) - 44.4% vs 74.3%, p=0.0140

- b. 働き方改革の認知 (Q19) - 50.0% vs 70.0%, p=0.0280 **【保護者対象の分析結果】**

【教員対象アンケート分析結果】

学校として十分に達成していると読み取れること

- a. HPでの情報発信の認知 (Q4) - 100.0% vs 55.6%, p=0.0040

- b. 授業のわかりやすさ・工夫 (Q6) - 93.3% vs 63.0%, p=0.0430

- c. 窓口・電話対応の適切さ (Q5) - 100.0% vs 72.2%, p=0.0440

学校として改善すべきと読み取れること

- a. 教員同士の協力 (Q3) - 66.7% vs 82.2%, p=0.0027

- b. 進路情報・資料の整備 (Q12) - 60.0% vs 72.6%, p=0.0012

【地域対象アンケート分析結果】

学校として十分に達成していると読み取れること

該当なし

学校として改善すべきと読み取れること

- a. 窓口・電話対応の適切さ (Q5) - 55.6% vs 93.9%, p=0.0022

- b. 学校行事の活発さ (Q15) - 55.6% vs 85.7%, p=0.0070

- c. HPでの情報発信の認知 (Q4) - 50.0% vs 78.8%, p=0.0212

(2) 全対象合算値による学校としての強み (成果) と改善点を分析

①分析方法

以下の抽出方針によって抽出した。

【学校としての強み】

全対象合算の肯定率が高い項目を上位化した。ただし、同率の場合は対象間のばらつき p 値を参考として算出した。

【学校としての弱み (改善すべき事項)】

全対象合算の肯定率が低い項目を上位化した。同率の場合は否定率が高いものを優先しつつ、併せて対象間のばらつき (4×3 検定の p 値) に留意して抽出した。

②分析結果

強み (誇れる成果) Top3

1. 将来への役立ち (学習・検定) (Q10) - 肯定 90.9%, 対象間 p=0.0300
高い肯定率だが、対象間に有意なばらつきあり (注:一部対象の強化余地を示唆された)。
2. ルール・マナーの指導 (Q11) - 肯定 89.2%, 対象間 p=1.0000
高肯定かつ対象間のばらつきがなく、本校の安定した強みである。
3. 学校生活の将来有益性 (Q2) - 肯定 83.8%, 対象間 p=1.0000
高肯定・ばらつきなしで広く支持されている。

改善すべきこと (弱み)

1. 読書活動の充実 (Q7) - 肯定 47.7%, 否定 28.4%, 対象間 p=0.0002
肯定が半数未満、かつ対象間に強いばらつき (特に生徒で低い)。
2. いじめ・悩みへの対応 (Q8) - 肯定 65.9%, 否定 17.0%, 対象間 p=0.0680
肯定は6割台で伸びしろある。ばらつきは境界的で重点観察事項と推察される。
3. 働き方改革の認知 (Q19) - 肯定 65.9%, 否定 17.0%, 対象間 p=0.0650
認知の底上げが課題である。外部・家庭への情報発信工夫が有効と考えられる。

2. 分析を踏まえた今後の検討事項（案）

今後の教育活動における改善プランを提案する。ただし、これはアンケート結果から分析したものであるため、参考資料とし、各分掌等を中心に実態に合わせた方法で今後の教育活動に生かしていくものとする。

（1）アンケートの総合結果からの検討事項

①（Q7）読書活動の底上げの検討

生徒での肯定が特に低いため、学期末や放課後の読書機会の“見える化”と参加促進を重点、読書週間などの設定企画や読書チャンレンジなどのイベントや特別授業等の周知などが考えられる。

例・読書の機会を教育活動の中に入れ込む。（読書の時間の明示）

→3学期の特別授業で読書の時間を入れた。

・夏休みの宿題等で読書感想文を課し、文化祭で発信した。

→このような取組をしていることを生徒へ再度周知する。

・読書の機会を継続的に入れるサイクルをつくる。（例：小中でやっている短時間の朝読書のようなもの）

②（Q8, Q19）情報共有・広報：悩み・いじめへの対応、働き方改革の取組についての発信

教員側は十分に行っていると考えているが、保護者・地域向けへの周知が不足しているため、認知ギャップを生じていると考えている。

まずは、校内で取り組んでいることを、保護者、地域の方々へ周知する方法を検討していく。HPでも引き続き発信しているが、別の方法がないか今後検討していく。特に地域の皆様には学校の魅力に力点をおくことばかりではなく、学校の興味をもってもらうことを念頭にいった発信もあってよいのではないかと考え検討していく。

例：住民向けの掲示板の活用、発信しているという雰囲気づくりが必要である。

芸術・写真部が撮影した写真を掲示するなど。

③（Q4, Q5, Q15）外部接点の体験改善の検討

地域での評価が低い傾向にあるが、募集停止にともない、対象者が地域住民となっているため、どこまで必要にせまるかも含めて検討していく。HP更新頻度・見やすさ（Q4）、窓口対応のプロセス確認（Q5）、行事の発信の適切な方法（Q15）を再点検する。具体的な方法として、前項②と同様の方法で効果があるのではないかと検討している。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・消防署の方や保護者代表の方などから、学校の防災機能（備蓄倉庫）などの見学をすることの改善案をいただき、3月の避難訓練の後に、備蓄倉庫の見学などを行い、自助、共助をより喚起することができた。

・学校評価アンケートの経年比較ではなく、統計的な手法を用いて、現状分析をより明確にしたところ、この手法について外部委員の方々も支持をいただいた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・令和8年度より新たな入学生を迎えない状況の中においても、よりよい学校づくりを進めるため、生徒および教職員の新たな発想を生かし、閉塞感を払拭する方策について検討していく必要がある。

・地域の方々からなかなか学校の教育活動の様子が伝わっていないことが、学校評価アンケートの結果からも明らかになった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・学校満足度の向上を図る。

（2）学習指導及び進路指導

- ・資格取得の推進に一層取り組む
- ・学習意欲向上と基礎学力のさらなる定着を図り、社会に貢献できる人材を育成する

（3）特別活動

- ・生徒が主体的に取り組む特別活動を推進する。

（4）生活指導

- ・規範意識を高め、社会に貢献できる人材の素地を醸成する。
- ・防災意識をより高め、防災教育をより充実させる。